

ジンジャ 尾山神社。

サカキバラモリノリ 榊原守典 通稱三郎。

字は子典。拙處・三痴・蘭所・夢松・一翁・逸翁・梅下書屋等と號した。守典は上田氏より出で、

今枝内記の臣榊原氏に養はれ、安政六年小松在勤を命ぜられ、文久三年金澤に歸つた。性

學を好み、詩を作り、南宗の畫を能くし、又書に巧みで、常に正楷を以て孝經を一紙に書

するを日課とし、その數千四百本に上つた。明治八年六月七日歿、齡八十五。金城風藻・

蘆城風藻の著がある。守典の子守都は思齋と號し、亦詩を嗜んだ。

サカキヤマ 榊山 鹿島郡大津のうちにあ

る。府中日吉社(今大地主神社)四月の祭禮に立てる大櫓は、七尾の小島屋六左衛門といふ者が、毎歲この山から伐出す例であつた。

サカクラナイゼン 坂倉内膳 慶長十二年

前出利常に祿せられて三百石を受け、御小將組に列し、元和二年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

サカケンシン 坂元慎 金澤の市醫で、物

産の學を京の小野蘭山に質し、遂に之に精通して名聲大に顯れ、天明中金谷御殿に召されて、前田重政の侍醫等の爲に本草の書を講じ、

後藩の老臣村井氏に扶持せられ、享和元年主命により屋漏堂花譜廿一卷を著した。屋漏堂

は村井氏の書齋である。文政四年四月十五日七十歳を以て歿。元慎のその他の著に本草類方廿一冊、名物捷徑内編十六冊等がある。

サカサスギ 倒杉 珠洲郡寺社なる高照寺

の門前にあり、高さ一二米、周囲七米。亦一本杉ともいひ、枝幹蜿蜒して地上に向かひ垂れる。能登名跡誌に、『門前の田の中に、白比

丘尼の餉の箸をさし給ひしというて杉の大木あり。枝葉異なる木也。能登の一本杉といへり。』とある。

サカサマガハ 逆倒川 珠洲郡眞浦の西に

在る。文化十四年郡方書上に、『眞浦村と鳳至郡時國村との境に、さかさま川と唱申川有之。』とある。

サカシタモン 坂下門 金澤城石川御門前

から蓮池と百間堀との間を通抜けて西南に進むと、守宮堀を右にして小坂路があり、その下に坂下御門があつて、傍に番所を設けられてゐた。明治二年十一月之を撤去した。

サガジュアン 嵯峨壽安 金澤に居た市醫

で越中東岩瀬の人嵯峨健壽の二子。諱は一正、秋浦と號した。初め醫を黒川良安、漢籍を井口濟に學び、次いで江戸に出て村田藏六の塾頭となり、又長崎に遊んで露語を宣教師ニコライに受けた。加賀藩乃ち明治二年五月壽安に露國留學を命じたが、壽安は三年一月を以て米國汽船に搭し、横濱から函館に赴き、五月露艦エルマーク號に便乗して浦鹽

港に上陸し、渺茫千里の野を踏破してノブゴロッドに至り、汽車に乗じて首都聖彼得堡に入つた。時に四年一月七日であつた。既にして藩は廢せられたが、壽安は尙露都に留り、七年に至つて歸朝した。邦人の西比利亞を横斷したものは、實に壽安を以て初とすといはれる。壽安歸朝の後北海道開拓使・文部省・内閣・參謀本部等に仕へ、次いで第五師團露語研究會教師に聘せられ、明治三十一年十二月十五日享年五十九を以て廣島に歿した。

サカヅリ 坂尻 石川郡富樫庄に屬する部

落。郷村名義抄に、此の村の嶺山龍、谷の岩屋に登る坂を一坂といひ、その坂下にある村であるから此の名を得たとある。この坂尻に沓掛松があつた。三州名蹟志に、古へ白山の麓島・牛首村邊から坂尻村の沓掛松までは白山宮領であつたといふ。又この松が坂尻村と小柳村との領境であつたともいふ。後枯死したが、村の並び往来脇の田地に沓掛松の字が残つてゐるとある。

サカヅリ 坂尻 鳳至郡山田郷に屬する部

落。明治中に至り、龍・下代と合併して鮭尾と改稱した。

サカヅリヤカリヨウ 坂尻屋珈涼 金澤の

俳人五々の妻で、伽涼とも書き、亦嗜好を同じくした。一に草婦人の號がある。明和八年十一月廿五日七十六歳を以て歿した。

サカヅリヤゴゴ 坂尻屋五五 金澤の俳人。

飯島氏。通稱は八郎右衛門。所居を百雀園といふた。

サガセキスケ 佐賀關助 元祖佐賀關大夫

は前田利家に召出されて二百石を賜はり、慶長十五年歿し、其の子關助遺知を受け、越中四郡の博勞支配となつた。その子關助又後を襲ぎ、遺知の内百石を賜はり、越中三郡の博勞支配となり、二男隼之助に百石を配知して新川一郡の博勞支配とせられた。↓セキスケ

サカタ 坂田 鳳至郡興呂見の内の小字。

サカタニ 坂谷 能美郡丸山の部落北方の谿谷で、その水大日川に注ぐ。

サカタル 酒垂 鳳至郡宇出津の内の小

字。

サカタルジンジャ 酒垂神社 鳳至郡宇出

津に鎮座する。文應二年の諸橋六郷目録宇出津の神田のうちに酒垂二段と記するもの是である。式内等舊社記に、『酒垂神社。諸橋郷宇出津村酒垂鎮座。祭神大山祇命。稱酒垂宮。或云酒垂明神。舊社也。』とある。

サカド 坂戸 河北郡河村郷に屬する部落。

サカドノシヤ 酒殿社 石川郡木滑に在る。白山記に『中宮下有橋名一橋云々。其次有社號酒殿、有大瓶跡。』式内等舊社記に、『酒殿神社。河内庄木滑村鎮座。今稱貴船明神。』とある。今この社を貴船社と稱する。

サカノシモ 坂ノ下 江沼郡奥山方に屬す

る部落。江沼志稿に、この村領に堂屋敷といふがあると見える。

サカノシモタウゲ 坂ノ下峠 江沼郡四十

九院と坂下兩部落間に在る峠。

サカノテ 坂野出 鳳至郡市瀬の内の小

字。

サカノナガタカ 坂野長高 通稱忠兵衛・

帶刀左衛門。延寶六年父七左衛門長政の遺知二百石を襲ぎ、御馬廻に班し、大小將・表御納戸奉行・御膳奉行・御細工奉行に歴任し、元祿十二年御臺所奉行として百五十石を加へ、十五年又百五十石を増し、寶永元年五十五歳で歿した。

サカノナガヨリ 坂野長仍 通稱市作・七

之丞。神波七兵衛の子。天正十四年越中守山に於いて前田利長に仕へ、二百俵を領し、慶長四年二百俵、八年五十石、九年又五十石を加へ、次いで坂野氏に改めて大坂兩陣に従ひ、寛永十六年利常の小松隱棲に伴ひ、十九年歿した。

サガノヤセツコウ 佐賀野屋雲貫 金澤の

俳人。最上氏。通稱庄兵衛。眉山の門から出